

## 小学校編

学びに向かう力を涵養する理科学習

一見通しと振り返りを促す OPPA を通して一

いすみ市立東小学校教諭

(前大多喜町立大多喜小学校教諭) 藤平 健太



### 1 研究主題について

本研究では、「学びに向かう力」の涵養に、OPPA (One Page Portfolio Assessment: 一枚ポートフォリオ評価法) を活用した指導と評価が効果的だと考えた。OPPAは、児童が「OPPシート」(図1)と呼ばれる一枚の用紙の中に授業前・中・後の学習履歴を記録し、その全体を学習者自身に自己評価させる方法である。教師は、児童が書いた学習履歴に対しコメントを書き、学習の質を高めるとともに、授業の評価と改善を行う。OPPAによる単元及び授業の見通しと振り返りが児童の「学びに向かう力」を涵養すると考え、主題とした。

### 2 小学校理科における学びに向かう力

新学習指導要領解説理科編による、「学びに向かう力、人間性等」の記載を基に、本研究では、理科における学びに向かう力としての「主体的に問題解決しようとする態度」を以下のように八つに分け、授業実践を通した児童の変容を分析し、OPPAの効果を検証した。

- (1)意欲的に自然事象に関わる
- (2)自然事象から問題を見いだす
- (3)自分の能力への自信、学んだ手応え(自己効力感)
- (4)学ぶことの価値や重要性を認識する(学びの意味付け)
- (5)身に付けた資質・能力を自覚する(自己成長感)
- (6)粘り強く問題解決する
- (7)他者と関わりながら問題解決する
- (8)学習内容を自然事象や日常生活に当てはめる

### 3 単元の実践

5年理科「振り子の運動」において検証授業を実施し、OPPシートを作成した。学習前に単元の「本質的な問い」に児童が答え、(A-1)教師は既習の知識や考えを把握した。児童は毎時間「今日学習した中で一番大切なこと」を記録し、学習履歴を残して自己の学び

を俯瞰した。教師は、コメントを書いてフィードバックを行った。(B-1~9)学習後、児童は学習前に行った単元の「本質的な問い」に再度答えた。(A-2)また、これまでのシートを踏まえ学習全体を振り返り、自己評価を記述した。(C)教師は、児童の学習評価、教師の授業評価としての総括的評価を行った。最後に、学習全体をどう捉えたかタイトルを考えた。(D)

図1

### 4 研究のまとめ

OPPAの活用により、「主体的に問題解決しようとする態度」において、(3)児童の自己効力感、(4)学びの意味付け、(5)自己成長感が特に高まった。単元前後をつなぐ学習過程の学習履歴、教師によるフィードバックが一覧できるため、学習の手応えや自信につながったと考える。

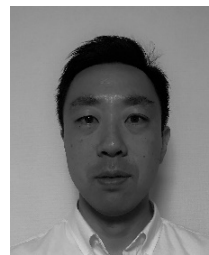
## 小学校編

対話を続け意見を育てる意見文指導

一対話的な場「校内投書」の設定と情報を関係付ける力の育成を通して一

鎌ヶ谷市教育委員会学校教育課指導室副主幹(兼)指導主事

(前鎌ヶ谷市立東部小学校教諭) あらい しょう 新井 翔



### 1 研究主題について

本研究では、意見文指導として以下2点の実現を目指した。(1)児童が異質な他者と対話する力を向上させること。(2)相手を想定して情報や資料を吟味し、友達の意見や考えを踏まえながら自分の論を発展させること。これに向け、以下のように学習指導を展開した。

### 2 研究の実際

#### (1)対話的な場「校内投書」の設定

「校内投書」とは一般の新聞にあるような投書を校内で行うものである。児童は週に一回、朝や昼休み後のモジュールの時間を活用して、あるテーマについて自分の意見を書き、それを投稿した。投稿された意見文を授業中互いに読み合った。自分とは違う意見や同じ意見でも理由づけが違うなど、多様な考えに触れることができた。このような継続的に意見文を書いたり、読んだりできる場は、自分の考えと他者の考えとの比較など自己内対話をするということにもつながった。

#### (2)単元の実際

①「校内投書」と並行して、5年国語「意見文の説得力を上げるためのミニレッスン」(第一単元)を行った。(図1)ここ

では、「三角ロジック」(図2)を用いて、主張、理由づけ、事実(データ)を基に文章を書く練習をした。児童は、自分の憶測ではなく、事実を基に理由づけを行うことで、自分の文

章に説得力が高まることを実感できた。意見文を書くにあたり、以下2点を指導した。

ア 事実として「引用」を用いること。

イ 「反駁」を使って思考し、表現すること。

児童は、「引用」、「反駁」を用いて文章を書くことで、他者の文章や考えに目を向けるようになった。また、「校内投書」を複数回行うことで、継続的に対話する姿も増えた。

②「自然保護のあり方について自分の考えを深め、意見文を書こう」(第二単元)において検証授業を行った。授業では校内投書とミニレッスンとで身に付けた力を生かして、意見文を書いているかを検証した。児童の変容は以下2点である。

ア 他者の意見を踏まえながら情報や資料を吟味できた。

イ 「引用」や「反論」、「反駁」といった書くことの技能を自然に活用できた。

### 3 研究のまとめ

意見文の学習過程に「校内投書」を設定することで、児童は課題について問い続けた。児童は時に自分の考えに自信を持ったり、時にゆらいだりしながら、自己の内面、そして他者と対話を続け、自己の意見を育てていった。そして、友達の意見や情報を引用したり、反論したりして自分の意見や考えを深め、豊かな意見文を書くことができるようになった。授業の最後に意見文集にまとめたが、その後の投書でも議論が起きるなど、課題を自分のものとして捉え、問い続ける児童の姿が見られた。

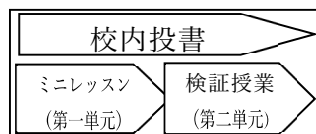


図1

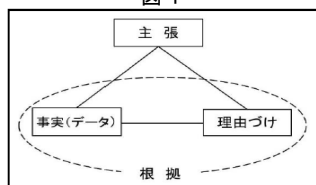


図2

## 中学校編

思考力を働かせる学習サイクルの構築

一定型表現で終わらない「やり取り」の力を育成するために一

浦安市立高洲中学校教諭

(前浦安市立浦安中学校教諭) 高島 健治



### 1 研究主題について

中学校学習指導要領（平成29年告示）の改訂に伴い、英語においては、「話すこと」が「話すこと[やり取り]」（以下、やり取り）と「話すこと[発表]」に分かれた。本研究は、「話すこと」の中でも、やり取りの領域に着目し、定型表現中心の活動から脱却し、生徒が本当に言いたいことを即興で言えるようにするための指導の在り方を追究するものである。

### 2 チャットの質を高める学習プログラム

図1は、「やり取り」の力を育成するために考案した学習サイクルである。以下の3点について工夫した。

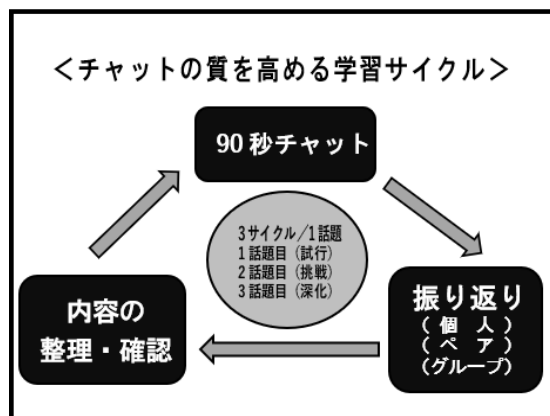


図1 チャットの質を高める学習サイクル

(1)単にペアでやり取りをさせるのではなく、話す前に短時間で「内容の整理・確認」を行わせるようにした。

(2)やり取り（90秒チャット）の後に「振り返り」の時間を設定した。ここでは、3種類の振り返りを行った。

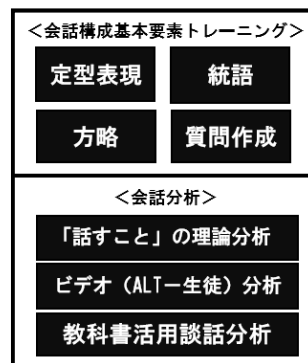
①個人：振り返り用紙を用いた自己評価。自分のやり取りの傾向や、何が言えて何が言えなかったか等を確認させた。

②ペア：タブレット機器に撮影した自分たちのやり取りを文字に起こす。

③グループ：2組のペアでグループを作り、互いに会話の流れをメモし、それを基に振り返りを行う。

(3)学習活動を支えるために、図2の取組を考案した。

＜会話構成基本要素トレーニング＞は、図に示した四つの力を鍛えるためのものであり、



帯活動として短時間で行えるようにした。＜会話分析＞は3種類あり、やり取りの仕組みを理論的に説明して生徒に理解させたり、やり取りが上手く継続できているビデオを視聴させたり、教科書の会話文をやり取りの視点で捉えさせたりして、生徒のやり取りの力を伸ばすことを目指している。

### 3 研究の成果

このような学習プログラムを使って中学3年生に約3週間指導したところ、やり取りの量が増えたことはもちろん、やり取りの中で用いられた言語の質的な面（単語の種類、句や文を用いた発話）での伸びが見られた。また、やり取りする話題が変わっても同様の変容が見られた。今後、やり取りの領域の指導をどのように行うべきかという議論がますます増えていくと考える。そうした問いに対する答えの一助となれば幸いである。

## 高等学校編

地域とともに歩む学校づくりと高校生の担う役割について

～“教えることは学ぶこと”の実践を通して資質・能力の向上を図る～

県立木更津高等学校教諭

(前県立君津高等学校教諭) 中山 晃男



### 1 はじめに

現在、地域とともに歩む学校づくりが求められている。本校では、生徒による近隣小学校への学習支援や行政と連携した地域住民や幼稚園との交流(出張講座等)を行ってきた。

本研究では、高校生が地域社会で活動することが、コミュニケーション能力を高め、書写・書道の確かな学力の定着や望ましい職業観の育成に有益であることを検証した。本稿では、近隣小学校への学習支援(書写)の実践に焦点化し、得られた成果を報告する。

### 2 研究の実際(11時間扱い)

近隣小学校で行った、書写の学習支援についての単元計画は、以下のとおりである。

#### (1)事前準備

- ①小学生のめあてを理解し、実際に生徒自身が書いてみて示範できるようにする。
- ②評価カード(図)を基に、評価基準と支援のポイントを理解する。
- ③小学生役と支援者役とに分かれて、支援の体験(演習)を行う。

| 毛筆『朝 日』評価カード                              |                            |  |        |
|-------------------------------------------|----------------------------|--|--------|
| 小学校 5年 組 番 氏 名                            |                            |  |        |
| 評価基準: Aでできている B概ねできている Cあまりできていない Dできていない |                            |  | 試書 までの |
| 朝                                         | 1画目と2画目の交差で1画目の横画は左が長い     |  |        |
|                                           | 横画が平行で等間隔になっている            |  |        |
|                                           | 「日」は左右の縦画は横画より長い           |  |        |
|                                           | 7画目と8画目の交差で7画目の横画は左が長い     |  |        |
|                                           | 7画目と8画目の交差で8画目の縦画は長脚になっている |  |        |
|                                           | 「月」は上部の間隔が等しい              |  |        |
| 日                                         | 「月」は長脚になっている               |  |        |
|                                           | 偏と旁が接していない                 |  |        |
|                                           | 1画目と2画目の縦画は垂直である           |  |        |
|                                           | 空間が等間隔になっている               |  |        |
|                                           | 1画目と2画目の縦画はともに縦画の方が長い      |  |        |
|                                           | 「朝」が大きく「日」が小さく書けている        |  |        |
| 全体観                                       | 「朝」と「日」の中心がそろっている          |  |        |
|                                           | 余白の上部、下部のバランスが良い           |  |        |
|                                           | 余白の左側、右側のバランスが良い           |  |        |
|                                           | 1次評価者 3年 組 番 氏名            |  |        |
| 2次評価者 3年 組 番 氏名                           |                            |  |        |

図

#### (2)教師(筆者)による指導(試書)

筆者が、小学生に試書を指導する。

### (3)小学生の作品(試書)の評価

小学生に支援する前に、出来上がっている試書を、評価カードを基に生徒が評価する。これにより、小学生一人一人の課題を把握し、ポイントを踏まえて支援できるようにする。

### (4)小学生への支援体験(まとめ書き)

生徒が示範したり、積極的にコミュニケーションを図ったりしながら支援する。まとめ書きが出来上がったら、試書と比較し、根拠を明確にして個々の成長や課題を伝える。



生徒による示範

### (5)小学生の作品(まとめ書き)の評価

試書とまとめ書きを比較し、評価カードに従って評価する。

### (6)支援体験の振り返り

生徒自身が自己の学びを振り返る。

### 3 まとめ

「教えることは学ぶこと」の実践を通し、以下の成果を確かめることができた。

- ・ほとんどの生徒が、自己のコミュニケーション能力の向上を実感することができた。
- ・自己の課題を追究し主体的に学ぶ生徒が増えた。その結果、書く枚数も増えた。学習支援の体験が書写・書道の確かな学力の定着につながったと考えられる。

※詳しくは、県総合教育センターのWebサイトに掲載。